

子育てカレンダー 12月～1月上旬



今後の新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、記載情報に変更となる可能性があります。最新情報を、町ホームページ等でご確認いただき、参加にあたっては事前に各問合せ先へご確認ください。

Enjoy

火水木 ひばりキッズルーム

わいわい遊びながら、情報交換で子育ての悩みを解消しましょう！

※利用にあたり、事前に申込みが必要です。

対象：【カンガルールーム(水)】

0歳児(生後3か月から)、1歳児【コアラーム(火・木)】2歳児、3歳児 **時間**：午前10時～正午 **内容**：お散歩、折り紙制作、伝承遊び、ごっこ遊びなど
場所・問合せ：ひばり子育て支援センター ☎ 296-5694

12/23(水) はとっこひろば「にこにこ」

にこにこサロンのボランティアアさんが、簡単な工作をしながらお子さんと遊んだり、保護者の方の相談や気になることなどをお聞きます。

内容：ミニクリスマスツリーを作ろう **時間**：①午前10時30分～11時20分②午前11時40分～午後0時30分の二部制 **定員・申込**：各回2組(全4組)事前申込み、費用無料。定員になり次第受付を終了。

問合せ・場所：ニュータウンふくしプラザ ☎ 290-5469

すくすく

12/7(月) 妊婦・乳幼児健康相談

対象：妊婦・生後4か月～4歳(事前予約制) **時間**：午前9時30分～11時 **内容**：身体計測、健康相談、栄養相談 **持ち物**：母子健康手帳、タオル

場所・問合せ：町子育て世代包括支援センター「びっぴ」(町保健センター内) ☎ 298-1136

12/9(水) すくすく相談

対象：主に乳幼児(事前予約制) **時間**：午後2時～午後4時30分 **内容**：小児科医・言語聴覚士・臨床心理士・作業療法士による発育発達相談
※受付時間等詳細は個別に通知します。

場所・問合せ：町保健センター ☎ 296-2530

保健センター及び子育て世代包括支援センター「びっぴ」では、離乳食や子育てに関する相談をお受けしています。お気軽にご相談ください。

ひばり子育て相談(電話相談)

外出するのはちょっと大変という方に、保育士・看護師が適切なアドバイスをします。

受付時間：平日(月～金) 午前9時～午後5時 **問合せ**：ひばり子育て支援センター ☎ 296-5694

教育相談

日時：12月3日・10日・17日
いずれも木曜日 午前11時～午後4時

場所・問合せ：町立鳩山中学校
さわやか相談室 ☎ 296-2230

育児や学校のこと、一人で悩まず相談を

離乳食教室 参加者募集

正しい離乳食の開始・進行は、子どもたちの成長・発達、健やかな親子関係の形成にとって重要な過程となります。初めて(久しぶり)の離乳食で、進め方などに戸惑いや不安を抱えるお母さん・お父さんなどのため、自信をもってお子さんの離乳期に対応できるよう「離乳食教室」を開催します。

- **対象** 妊婦、1歳ごろまでのお子さんの保護者と家族
- **日時** 1月14日(木) 午前10時～11時(受付は午前9時45分から)
- **場所** 子育て世代包括支援センター「びっぴ」
- **定員** 5組程度(定員を超えた場合は抽選)
- **担当** 町管理栄養士

- **内容** 離乳食の始め方と進め方について、妊娠期・授乳期の食事について、離乳食相談
- **持ち物** 母子健康手帳、その他必要なもの
- **申込・問合せ** 12月14日(月)～令和3年1月12日(火)の期間に町保健センター ☎ 296-2530 または子育て世代包括支援センター「びっぴ」 ☎ 298-1136 までお申し込みください。

※新型コロナウイルス感染症対策のため、規模・内容を縮小して実施します。体調がすぐれない方は参加をお控えください。また会場での検温や手指消毒、できる限り少ない人数でのご参加等、感染予防へのご協力をお願いします。



税に関する作文表彰で 鳩山中学校生徒3名が各賞を受賞



毎年、全国納税貯蓄組合連合会と国税庁が租税教育の一環として、中学生の「税についての作文」を共同で募集しています。

今年度は鳩山中学校から228点の応募があり、山室未来さん(2年、写真中央)の作文が日本税務協会会長賞に、中野壮志さん(1年、写真右)の作文が鳩山町長賞に、茂野愛唯さん(1年、写真左)の作文が東松山地区納税貯蓄組合連合会会長賞に選ばれました。また、鳩山中学校には、多数の応募に対して東松山地区納税貯蓄組合から感謝状が贈呈され、11月16日(月)に鳩山町役場305・306会議室で、表

彰式が行われました。

今回の受賞に関して、山室さんは「税を使って発展するためには、鳩山町の魅力を伝えていくことが大事だと改めて思いました。今後も税の作文などを使って協力していきたいです。」、中野さんは「手を打撲した期間を活かして、がんばって書いた作文が、今回受賞となり嬉しい。これからはもがんばってきたいです。」、茂野さんは「今回家族に税のことをいろいろ聞き、特に農業を行っている祖父から税のことで救われたことがあると聞きました。改めて税って大事だなと思いました。」と、それぞれ話していました。

今回は、受賞者の中から、日本税務協会会長賞に選ばれた山室さんの作文の一部を紹介します。

私たちが住む町の未来について考えるシニアハウスはとやまハウス」

鳩山中学校 二年 山室 未来

これは、近年高齢化が進む鳩山ニュータウンで、空き家を学生向けシェアハウスへ改修し、運営を行うモデル事業である。高齢化が著しい鳩山ニュータウンで展開されている地方創生のためのプロジェクトで、若者とまちをつなぎ、地域の活性化につながる取り組みとして期待されており、今現在三名の学生がシェアハウスに住んでいる。入居者は、鳩山町の公施設で月三十二時間働けば、賃料が無料になる。広報はとやまにはとやまハウスの紹介記事が掲載されており、このユニークなプロジェクトに興味があった。調べてみると、十三年間住み続けてきた自分の町について、初めて知ることが多く、驚くべき事実がわかった。

鳩山ニュータウンは、東京郊外にベッドタウンとして作られた町だ。私の母が鳩山中学校に通っていた頃はハクラスあり一学年の生徒数は三百を超えていたという。それだけでも驚きだが、現在の鳩山町は少子高齢化が進み、五十%以上が高齢者になっていることがわかった。(中略)

税金の使い道は医療や福祉・教育・子育て世代への給付金など様々あるが、「はとやまハウス」のような未来があるプロジェクトに税金が使われることに、私は賛成したい。

空き家を町が買い取り(※)、近隣にある大学の建築学科に通う学生を募集し、入居者自身に空き家のリノベーションに参加してもらう。学生にとっては実践を通して学習できる素晴らしい経験になるはずだ。さらに、鳩山町に住むことにより、鳩山町の良さを肌で感じてもらえることもできる。高齢者にとっても、若者が公共事業や町の事業に参加することは嬉しいだろう。「はとやまハウス」を体験した学生が大人になって家族ができた時、鳩山町で生活したい、と思ってもうそれは、いつかのプロジェクトが実を結び、加速する少子高齢化にストップをかけられるのではないかと期待している。町にたくさんのお家族が集まり、学校や商店、夏祭りなどのイベントもにぎやかになっている未来を想像したい。

(※)正確には鳩山町コミュニティ・マルシェ指定管理者が借上げ

希望する妊婦の方へ「分娩前ウイルス検査」のご案内



新型コロナウイルス感染症への不安から検査を希望する妊婦の方を対象に、分娩前ウイルス検査を行います。

検査費用の自己負担はありません。検査については、かかりつけ産科医療機関にご相談ください。

■ **URL** <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0704/boshi/ninpuqr.html>

■ **問合せ** 県健康長寿課 ☎ 048-830-3561

